



CHIKUWA!
チクワッ

自治会長様向け

はじめ方 ハンドブック



スパイラルローキャス株式会社

第1章

はじめに



1 「デジタル化」そのものが目的ではありません

行政担当者から、自治会運営をデジタル化するシステム「CHIKUWA!（チクワッ）」の紹介があり、自治会でも導入する方針が示されました。

「自分に使いこなせるだろうか」と不安に感じていませんか？

このハンドブックでお伝えしたいのは、操作方法ではなく、自治会運営をより円滑に進めるための考え方や工夫です。

CHIKUWA!は、紙や電話で行われてきた自治会運営をデジタルで支援するツールです。ただし、デジタル化そのものを目的とするのではなく、自治会が抱える課題の解決に役立てていくことを目指しています。



2 なぜ今、変える必要があるのでしょうか？

それは、「これまでのやり方」だけでは、対応できない問題が増えてきているからです。

役員のなり手不足

仕事や子育てで忙しい現役世代には、回覧板や会議の負担が重くのしかかる

伝わらない悩み

手元に届く頃には期限が過ぎていることも多く、大切な情報が生かされない

もしものときの不安

災害時、紙の名簿だけでは住民の安否をすぐに把握できない

今、やり方を見直すことは、現役員の負担を減らすだけでなく、5年後・10年後に次の世代が「自分にもできそうだ」と思える環境づくりにもつながります。



3 「全員」を目指さなくて大丈夫です

一番の不安は、スマホを持っていない人や苦手な人への対応ではないでしょうか。しかし、最初から「全員」を目指す必要はありません。

「できる人」から始めることで負担軽減に

一部の方がアプリに移行するだけでも、紙の配布や電話の回数は大きく減ります。その分、時間や手間に余裕が生まれ、スマホを使わない方への対応も丁寧に行えるようになります。

デジタルと紙の併用で進める

アプリを使える方はアプリで、スマホを持っていない方には、これまで通り紙の回覧板や掲示板で対応します。



4 会長の役割は「方向を示す」こと

もし、スマホの操作が分からない場合は、次のように伝えてみましょう。

実は私も詳しくないのですが、みんなの負担を減らすために使ってみようと思っています。操作が分かる方がいれば、ぜひ教えてください。

このように詳しい方の力を借りながら、「みんなで取り組む雰囲気をつくること」が重要です。

会長さんへのメッセージ

自治会運営を無理なく続けるために、まずは役員や班長など身近なメンバーから小さく始め、住民の負担を減らしていきましょう。

第2章

こんなときに役立つ！活用シーン

CHIKUWA!を導入するとどのように役立つのか、具体的な活用シーンを通して、会長・班長・会員それぞれのメリットを見てみましょう。

1 回覧板を「配る・回す」から「送る」へ

今までの悩み

「雨の日に回覧板を持って回るのが大変」「共働き世帯が多くて、どこで止まっているか分からない」といった負担や不安がありました。

CHIKUWA!でできること

役所からの通知や回覧物は、CHIKUWA!を通じて各会員に配信できるため、紙の回覧板を順番に回す手間がなくなります。

ここが「楽」になる

- 会長** 「回覧板が届いていない」という問い合わせや紛失トラブルが減る
配布状況を確認しやすくなり、自治会運営に集中できる
- 班長** 回覧板を持って各家庭を回る負担が軽減される
不在家庭への再訪問が不要になる
- 会員** 好きなタイミングで回覧内容を確認できる
最新のお知らせを見逃しにくくなる

2 「雨天中止」や「急な予定変更」の連絡を瞬時に

今までの悩み

雨天による行事中止を住民全員に伝える手段がなく、連絡漏れの心配がありました。場合によっては、現地での案内対応に追われることもありました。

CHIKUWA!でできること

「本日の清掃活動は雨のため中止します」と、CHIKUWA!でお知らせを配信すれば、すぐに会員全員へ共有できます。

ここが「楽」になる

会長 「連絡漏れ」を心配しなくてよくなる
急な予定変更でも落ち着いて対応できる

班長 電話連絡網や個別の声かけが不要になる
急な連絡対応に時間を取られにくくなる

会員 無駄な準備や外出を減らせる
「今日はどうなるのか」と迷わずにすむ

3 「ちょっとした相談」を、集まらずにスマホで完結

今までの悩み

「集会所の電球が切れた」「備品が足りない」など、ちょっとした判断でも、次の役員会（月1回）まで待つ必要がありました。緊急時には、会長が個別に役員へ電話確認するなど、負担も生じていました。

CHIKUWA!でできること

役員専用の「相談グループ」を作成し、「これを購入してもよいか」といった内容を写真付きで投稿するだけで、役員間での共有や相談ができます。

ここが「楽」になる

- 会長** 一人で抱え込まず、役員仲間に気軽に相談できる
- 班長** 集まったり、長電話したりする必要がなくなる
都合の良い時間に返信できる
- 会員** 備品不足や不具合への対応が早くなり、安心できる

4 「分厚い紙ファイル」の引き継ぎから卒業

今までの悩み

年度末の役員交代では、大量の紙資料の引き継ぎや自宅保管が負担でした。また「前年の資料はどこか」「過去はどのように対応していたのか」を確認するにも時間を要し、次期役員を引き受ける際の心理的負担にもつながっていました。

CHIKUWA!でできること

規約や過去の議事録、行事マニュアルなどをPDFや写真データとして「共有資料」に保存することで、必要な情報をいつでも確認・共有できます。

ここが「楽」になる

- 会長** 資料を自宅で保管する負担が減る
過去資料をCHIKUWA!ですぐに確認できる
- 班長** 引き継ぎがスマホで完結する
過去資料や手順をいつでも確認できる
- 会員** 役員交代後も円滑に自治会運営ができる

会長さんへのメッセージ

最初からすべてを行う必要はありません。「今月は回覧板のみ」「来月は出欠確認のみ」というように、一つずつ増やしていきましょう。会長自身が業務の効率化を実感することが、周囲への理解を得る一番の近道になります。

第3章

導入の手順

実際にCHIKUWA!の導入を進めるにあたって、最初から全住民を対象に進めようとすると、会長にとって大きな負担になってしまいます。まずは役員や班長など、身近なメンバーから少しずつ広げていきましょう。

CHIKUWA!を導入する際のおすすめ手順

- 1 「役員内」で試してみる
- 2 「班長」と一緒に運用を始める
- 3 「利用したい班」から住民へ声をかける
- 4 「日常」にゆっくり溶け込ませる

手順 1 「役員内」で試してみる

まずは会長や副会長、会計などの「三役」だけで、役所からの連絡ツールとして使い始めてみましょう。

やること

数人でアプリを入れ、役所からの回覧板を確認したり、相談グループに書き込んだりします。

ここでのポイント

実際にアプリを使ってみることが大切です。

「意外と簡単」「LINEに近い感覚で使える」と感じてもらい、安心感を持てる状態を作ります。

手順2 「班長」と一緒に運用を始める

「自治会内で活用できそうだな」と感じたら、役所の担当者に相談しましょう。これまで回覧板の配布を担当していた班長を巻き込んで、小規模な運用からスタートします。慣れてきたら、月1回の役員会（班長・組長会議）などへ対象を広げていきましょう。

やること

班長は役所からの回覧情報や会議資料をCHIKUWA!で確認します。役員会などの出欠確認も数日前に済ませられるようにしましょう。

会長のひとこと例

「今度の会議資料をアプリに入れておきました。当日も紙で配布しますが、事前に確認しておくと、会議が進めやすくなりますよ」

ここでのポイント

班長に、配布・回覧の負担が減ることや会議時間を短縮できることを実感してもらいます。

手順3 「利用したい班」から住民へ声をかける

役員（三役）や班長のみなさんがある程度アプリを使い慣れてきたら、住民の方々へ案内を始めます。ただし、ここでも全員にお願いする必要はありません。

やること

班長に協力してもらい、班単位でCHIKUWA!アプリの登録を促しましょう。

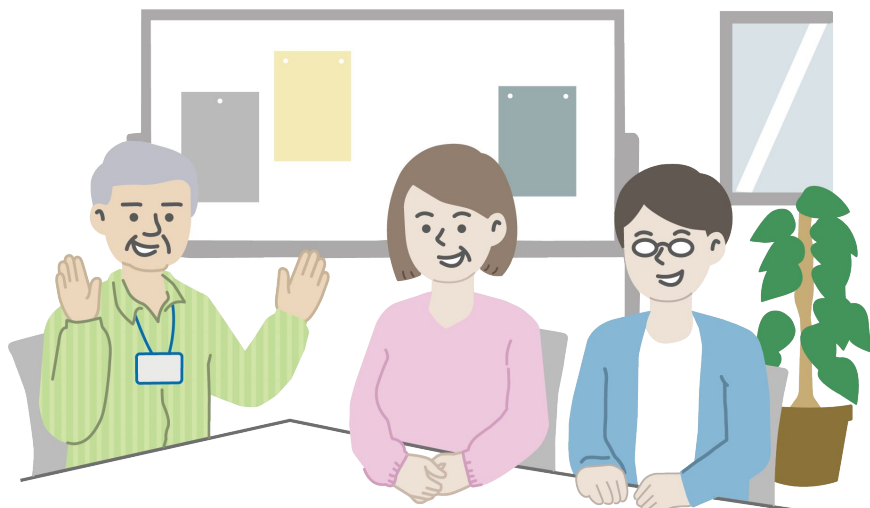
伝え方のコツ

「強制ではありません。できそうな班から始めてみてください」「スマホをお持ちの方、操作に慣れている方から、参加してみてください」

ここでのポイント

無理に全員へ広げず、利用したい班から進めます。

班長に配布や回覧の負担が減ることを理解してもらうことで、各班へ自然に利用が広がっていきます。



手順4 「日常」にゆっくり溶け込ませる

登録者が増えてきたら、写真共有やイベント告知など、アプリならではの機能も使ってみましょう。班長の判断で紙の回覧板を止めてみてもいいかもしれません。

やること

祭りの準備風景といった写真の掲載やゴミ収集日の変更など、確認しておきたい情報を配信します。

ここでのポイント

アプリを無理なく日常の中で使ってもらうことが大切です。班ごとの状況を見ながら、慣れた班から順にアプリへ移行してみましょう。

会長さんへのメッセージ

自治会の運営は長年続いてきたものです。短期間で変えようとするのではなく、半年～1年ほどかけて、自然に利用者が増えていく形を目指すほうが、無理なく進められます。

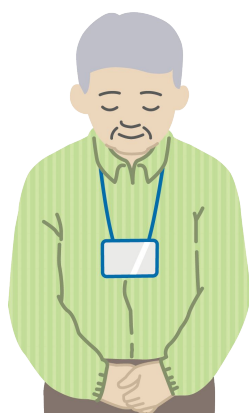
さいごに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

「本当にうまくいくだろうか」と不安に感じるのは、それだけ真剣に地域のことを考えている証拠かもしれません。

「デジタル化」は、これまでのやり方を変えることが目的ではなく、これからも地域活動を続けていくための選択肢のひとつです。

まずは、身近な役員の方に「気になるツールがあるので、一緒に確認しませんか？」と話すところから始めてみましょう。



付録

伝え方ガイド

「デジタルは少し不安」という方にも取り組みやすいよう、会長向けの説明例とよくある課題への対応方法をまとめました。必要なときにご確認ください。

会長さんの「最初のひとこと」例

場面A

役員会（班長・組長会議）で初めて提案するとき



現在の運営方法のままでは、負担の大きさから役員のなり手が減っていくのではないかと心配しています。そこで業務負担を軽減するため、スマホ連絡アプリ「CHIKUWA!」の利用を考えています。

私自身もデジタルは得意ではありませんが、まずは無理のない範囲で試しながら進めてみませんか？

場面B

反対意見（「今のままでいい」）が出たとき



今までの方法に慣れているので、変更には不安があるのは当然だと思います。すぐに回覧板をやめる予定はありません。ただ、仕事などで回覧板を確認しづらい方にも連絡が届く手段を一つ追加したいと考えています。希望する方から試験的に始めていきましょう。

導入時にぶつかる「6つの壁」と対策

壁 1 「操作を聞かれても対応できない」

対策

「私は導入の責任者であって、操作の担当者ではない」と割り切る

スマホに詳しい方に協力してもらいながら、必要な場面で互いに助け合える体制を目指します。各々が無理のない範囲で関わり、不明な点はその都度確認しながら進める旨を伝えます。

壁 2 「総会で反対派に責められないか心配」

対策

「否定」ではなく「段階的な移行（選択肢の拡大）」であることを伝える

「まずは半年だけ試行運用させてください」と期限付きの導入とすることで、合意を得ます。試行の結果、効果が見られない場合は元の運用に戻すことを提案して、安心感を確保します。

壁 3 「スマホを持たない人との格差は？」

対策

「持たない人の支援を最適化するためのツール」と説明する

アプリを活用して連絡業務を効率化することで、役員の対応時間に余裕が生まれます。その分の時間を、スマホを持たない方への対面対応や個別支援に充てられることを説明します。

壁 4 「グループ会話で文句を言われたいか？」

対策

「ルール」ではなく「お願い」で、良い空気を作る

「ここは広報誌のデジタル版（伝達の間）です」と位置づけを明確にし、各投稿に対して、会長が最初にコメントします。前向きなやり取りが定着しやすくなり、不要な対立も起こりにくくなります。

壁 5 「自分が辞めたら、誰も使わなくなるのでは？」

対策

仕組みを継続可能な形で残すことが、最良の引き継ぎになることを伝える

アプリに資料や記録を蓄積しておくだけで、後任者の負担は大きく軽減されます。「次の人に同じ苦勞をさせたくない」という思いで使い続けることが、そのまま引き継ぎにつながります。

壁 6 「個人情報やプライバシーの漏洩が心配だ」

対策

管理の安全性を伝えつつ、「適切なルール」を共有する

CHIKUWA!は会員・世帯情報を適切なセキュリティで管理しているため、紙の名簿より紛失リスクを減らせます。LINEのように個人同士がつながるのではなく、管理された環境のもとで情報共有を行う仕組みであることを伝えましょう。

会長さんへのメッセージ

困ったときは自治体や周囲に相談し、「助けてもらいながら」進めることが成功の近道です。完璧を目指さず、支え合って導入しましょう。